

KOSH BAKOSH
コシユ・ソバ・コシユ

恋はロープウェイに乗って



SILVER LION
VENICE 1993

1993年ヴェネツィア国際映画祭銀獅子賞受賞

監督=バフティヤル・ブイナザーロフ 撮影=ゲオルギー・ザラーエフ

出演=パウリーナ・ガルヴェス/ダレル・マジダフ

1993年 タジキスタン カラー 90分 提供=パイオニアLDC 配給=ユーロスペース



KOSH BA KOSH
ゴシュ・バ・ゴシュ

恋はロープウェイに乗って

愛は時を選ばない

1993年ヴェネツィア国際映画祭銀獅子賞受賞

監督+編集=バフティヤル・フドイナザーロフ

脚本=バフティヤル・フドイナザーロフ+レオニード・マフカーモフ 撮影=ゲオルギー・ザラーエフ

音楽=アフマド・バカエフ 出演=パウリーナ・ガルヴェス/ダレル・マジダフ

1993年 タジキスタン カラー 90分 提供=パイオニアLDC 配給=ユーロスペース

SILVER LION
VENICE 1993

渡辺祥子

♥あの、見ているうちに、「あれは何?」「何をしている?」「なぜ?」——と、好奇心が刺激されっぱなしでワクワクさせられた中央アジアの国タジキスタンの映画、『少年、機関車に乗る』の監督バフティヤル・フドイナザーロフが、内戦下の混乱と恐怖の中で第2作『ゴシュ・バ・ゴシュ——恋はロープウェイに乗って』を撮った。

♥画面の中にはときおり銃声が響きわたり、戦闘がごく近くで行われている緊張があるが、そこで繰り広げられるのは、内戦という言葉から連想されるレジスタンス物などではなく、若々しいラヴ・ストーリーというのが楽しい。

♥監督は言ったそうだ、「愛は時を選ばない」。なるほどね。そして、ヒロインの父親はバクチで大敗するダメ男。タイトルの『ゴシュ・バ・ゴシュ』は、「勝負なし」「あいこ」の意味を持つタジク語の賭博用語だそうだけど、バクチの絡む男女の恋物語のタイトルが、「勝負なし」だなんて、なかなか意味深長だし、おかしくもある。

♥さすがは、なぜ、なぜ、を続出させて観る者の好奇心を煽りたて、そうすることによって、多くの疑問が山積みなのに答えの見つからないタジキスタンという国の現状を語ってしまったフドイナザーロフ、彼は内戦などにはめげず、またしても自分流の映画を作ってしまったのだ。

ロープウェイが見守る ラヴ・ストーリー

♥前作の『少年、機関車に乗る』は、モノクロームで田舎から都会へ父を訪ねる兄弟の機関車での旅を描いたが、ここでは、モスクワから久しぶりにタジキスタンの首都ドゥシャンベに帰ってきたら、父親のバクチのかたにとられそうになってビックリの娘と、彼女に夢中になった地元の若者の恋がカラーでつづられている。

♥バクチのかたなんて、と怒り狂う娘ミラ。そんな気丈で鼻つまきの強い、しかも先進西欧風の教育を受けた娘にぞっこん惚れ込んだ地元保守的のアジア圏の青年ダレルには、彼女の怒りや戸惑いがわからない。彼は男尊女卑の家父長社会で育ち、父親にさからったりする娘なんか見たこともないのだから。

♥この一組の若い男女の関係を見つめながら、山あいの村と麓の町を結んでゆったりと登り降りするロープウェイや、戦乱を逃れてドゥシャンベに集まってきた難民たちの生活をいきいきとらえているカメラは、前作にも増して好奇心をかきたたせる“物”や“事柄”をうつしだす。

心を元気にしてくれる映画

♥驚くほどいろいろなことに使われている、と見えて、実際にはあまり役に立っていないようなロープウェイ——これは何のために作られたものなの? 突然、坂を下ってくる手製のゴーカートの遊び、あるときはハリボテの馬の首にまたがって悩めるダレルの前に降って湧いたように現われ、またあるときは、こちらも悩めるミラの歩く道で上半身裸で踊るおじいさん、あれは何者?

♥タジキスタンって、ほんとに不思議な国。決して豊かではなさそうだけど、どこか余裕があつてのんびり。銃声は響くし、夜空に爆撃の閃光が走っているのに、誰もあまり気にしていないのにも驚いてしまう。

♥すぐ近くで戦闘が行われているのに、それはそれ、こちらはこちらの生活がある、と言わんばかりに進んでいくドラマ。タジキスタンの不思議に彩られて浮かび上がる若いカップルの恋はとても新鮮でチャームングだ。ミラは、自分の気持ちも、なぜ父のもとへ帰ってきたかもよくわかっていなくてちょっとばかり混乱。ダレルのほうは、好きな彼女をどこまでも追いかけている。



♥そんなチグハグな男女の間に育つ恋を楽しく見せて、グルグル目が廻りそうな愉快なラスト。前作のときもそう思ったのだけれど、フドイナザーロフには、とても感じの良いユーモア・センスがある。このユーモア・センスは、疲れた心を元気にするのにききめがありそうだ。

ものがたり

♥内戦下のタジキスタン共和国の首都ドゥシャンベ。ほかにすることがないのか、男たちが集まってギャンブルに興じている。そのなかに若いダレル(ダレル・マジダフ)の姿もあった。

♥ドゥシャンベの上空を行き来するロープウェイは、ビールをくすねたり、難民を運んだり、時には空中でのロマンチックなデートの場所にもなる。ここがロープウェイの操縦士ダレルの舞台だ。

♥ギャンブルで大負けした父親のもとに、久しぶりにモスクワから美しい娘ミラ(パウリーナ・ガルヴェス)がやってくる。娘までも借金のかたにしてしまう父親。都会育ちで、アジア的な家父長制度に反発するミラは、ダレルにとって新鮮で魅力的だ。

♥内戦が激化し、砲撃の音が闇を切り裂くなか、恋は時を選ばずに突然やってくる。ミラに一目惚れしたダレルは、彼女を父親から奪い去った!

♥のんびりと行きつ戻りつするロープウェイのように、二人の恋物語が繰り広げられる。

♥突然、父親が心臓発作で他界し、モスクワに帰るミラの乗った車をダレルは必死で追いかける。

1/21 土 ~ 27 金 ロードショー

→ 1:10/3:00/4:50/6:40

フドイナザーロフ監督第一回作品

「少年、機関車に乗る」同期間レイトショー→8:20p.m.~

(1991年/タジキスタン・旧ソ連合作/100分)

前売券=1,200円
好評 前売中
(当日一般=1,600円/学生=1,300円)

ホワイティ泉の広場にかかる 東へ5分
扇田ミュージアムスクエア
06・361・0088